

第5回 2025年

シネマ☺ピースカフェ

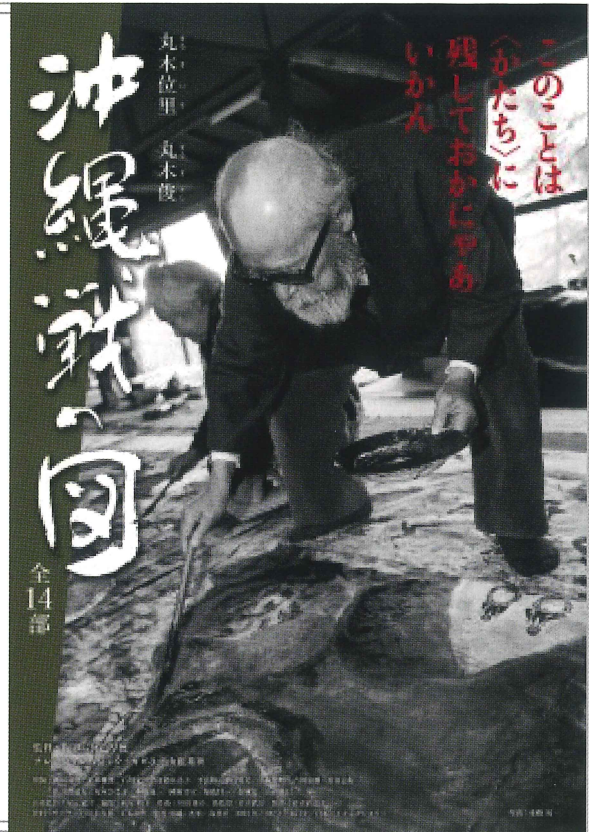
～手をつなぐ・平和な未来を願う～

2025年4月11日(金)～20日(日)

息子の誕生をきつかけに手にしたカメラがパレスチナの現実を鮮明に映し出す。壊された5つのカメラに映る圧倒的な映像は現在のガザにつながっている。



©きろくびと



©2023 佐喜眞美術館、ルミエールプラス

沖繩に通い続けて、地上戦の「現場」に立ちながら、戦争の愚かさを余すことなく伝える丸木夫妻の全14部。「命どう宝(命こそ宝)」の精神に共感共苦した「人間のいのち」への深い鎮魂と洞察の軌跡。

頑張れって言ったって、何を頑張ればいいのか。「人間もつと泣かなきゃだめだと思う」。遅発性PTSDを発症する人々と、それを支える医療従事者たちをカメラが追う。



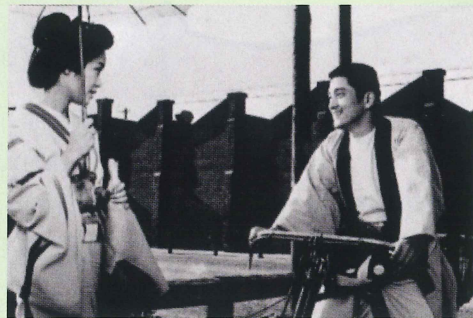
©日本電波ニュース社

橋のない川

第一部 1969年

第二部 1970年

監督：今井正 原作：住井すゑ
出演：北林谷栄 伊藤雄之助 長山藍子



©独立プロ保存会

住井すゑの名作を巨匠今井正が映画化。理不尽な制作妨害と向き合いながら撮り切った、被差別部落小森で生きる兄弟の姿は、今もこの国の深いところに根を張る差別に迫る。

主催：ピースカフェちがさき

協力：チームみつばち

前売り・予約：1000円/当日：1200円 学生・障がい者：500円

予約・問い合わせ 090-4845-9915 (うらた) 0467-53-4448 (おごせ)

< 上映作品紹介 >

『壊された5つのカメラ～パレスチナ・ビリンの叫び～』

2011年/90分/パレスチナ・イスラエル・フランス・オランダ/ドキュメンタリー
監督：イマード・ブルナート/ガイ・ダビディ

パレスチナの民衆抵抗運動の中心地、ビリン村に住むイマード・ブルナードは末っ子四男の誕生を機にカメラを手に入れ凶らずも村の記録者となる。農業を営んでいたブルナートがカメラを持ちイスラエル人監督のダビディと共同で作上げたのが本作だ。デモの際の銃撃などでカメラは幾度となく壊れるが、その度に新たなカメラを手に入れ、息子の成長、友人たちの闘い、そして拡大していく入植を克明に切り撮っていく。

茅ヶ崎市民文化会館
1F ミニホール

4月11日(金)

- ①10:30～12:00(10:00開場)
- ②14:00～15:30(13:30開場)

☆上映終了後～現在のガザ報告～を予定しています。

茅ヶ崎市民文化会館
1F ミニホール

4月12日(土)

- ①10:30～12:00(10:00開場)
- ②14:00～15:30(13:30開場)

丸木位里・丸木俊 『沖縄戦の図 全14部』

2023年/88分/日本/ドキュメンタリー/監督・撮影：河邑厚徳
ナレーション：ジョン・カピラ、山根甚世

出演：新垣成世、平仲稚菜、石川文洋、島袋由美子、佐喜真道夫、知花昌一、金城実、丸木ひさ子
広島・長崎の核爆発の凄絶さを《原爆の図》15部に描き続けた丸木位里・丸木俊が、晩年に取り組んだのが地上戦を体験した沖縄戦だった。このドキュメンタリーは沖縄戦の図全14部を紹介する初めての試みである。
「沖縄の人々の願いと丸木位里・丸木俊の深い思想が会って《沖縄の図》全14部が生まれました」佐喜真美術館館長:佐喜真道夫さん

『生きて、生きて、生きる』 ☆蟻塚さんのトークあり

2024年/113分/日本/ドキュメンタリー /監督・撮影：島田陽磨

大震災、原発事故から13年。喪失と絶望の中でもがき苦しむ人たちと、彼らに寄り添う医療従事者たち。「生きてるだけで立派だよ」精神科医の蟻塚亮二さんは今でも死にたくなるという女性に優しく語りかける。「生きていていいんだという希望を持った時に人は泣ける」と蟻塚さんは言う。島田陽磨監督は「被害者たちの姿に人間の底力、美しさを感じた。映画を通して日常を生きることの大切さを感じてもらえれば」と話す。

茅ヶ崎市民文化会館
1F ミニホール

4月18日(金)

- ①10:30～12:30(10:00開場)
12:30～13:30

蟻塚亮二さんトーク

- ☆どちらの回をご覧になっても聴けます!!
- ②14:30～16:30(14:00開場)

茅ヶ崎市勤労市民会館
6階 A 研修室

4月20日(日)

- ①第一部 10:30～12:40
(10:00開場)
- ②第二部 14:00～16:20
(13:30開場)

『橋のない川・第一部、第二部』

第一部 1969年/127分/日本/劇映画 監督：今井正/原作：住井すゑ

第二部 1970年/140分/日本/劇映画 監督：今井正/原作：住井すゑ

出演：北林谷栄、伊藤雄之助、長山藍子、小沢昭一、山村聡、原田大二郎

部落問題というタブー視されてきた素材に挑み、全7巻までで600万部というベストセラーになった住井すゑの小説「橋のない川」。映画の第一部は少年編となる。いわれのない差別のなかで子ども達が戸惑う姿、歯を食いしばる姿は見る者を圧倒する。第二部では彼らが様々な差別と圧迫に屈せず、真の部落解放を願う人々と共に、日本で初めての人権宣言につながる水平社創立への第一歩までを描く。55年前の独立プロの名作、スクリーンには名優が顔を揃える。